

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	四條畷市立児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 1日		～ 令和8年3 月31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和8年3 月1 日		～ 令和8年3 月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4 月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センターを直営で運営する強みを活かし、本人に対して職員が力を合わせて健康・生活や運動・感覚、また認知・行動や言語コミュニケーション、人間関係・社会性の向上に向けた支援を行っている。	センター内で調理した温かい給食を提供するほか、集団での運動遊びや体操に加え、作業療法や理学療法を取り入れながら集中して体を使う時間を提供している。また子ども自身が楽しいと思え、次の行動へ繋がられるように関わり方や活動内容を工夫している。	子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、可能性を育むために職員皆が力を合わせ、園の友だちとの関わりの中でコミュニケーションや人間関係などを広げられるよう支援を行う。
2	児童発達支援センターを直営で運営する強みを活かし、職員が力を合わせて家族支援・サポートに努めている。	心理士による発達相談や言語聴覚士による言語相談、また小児神経医師・小児整形医師による診察、相談を実施するほか、子どもの発達や特性、関わり方のコツに関する学習会を実施している。また、子育てのストレスを減らし、親子とも生活の困り感を減らすことを目的に、ペアレントトレーニングを実施している。	ご家庭での困り事について、ご家庭でもできるような環境作りや関わり方などを一緒に考える。
3	児童発達支援センターを直営で運営する強みを活かし、職員が力を合わせて地域支援・地域連携に努めている。	地域のこども園と当センターの園児が互いに行き来し、朝の会や設定保育、外遊びをして交流を図っているほか、行事やイベント(節分や消防車が来た時等)に参加し交流している。また、市内の園代表者の交流会を行い、情報共有や情報交換の場を設けている。	園の代表者との交流会を通じ、更なる情報共有や情報交換を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職員(会計年度看護職員)の確保	療育運営にあたり、看護師については会計年度職員として採用しているが、確保が難しい状況となっていて一部募集中心となっている曜日がある。	市HPやハローワークを通じた募集のほか、専門職員間での口コミ等を通じ採用に努める。
2	運営体制の維持・構築	子育て中の職員も多く、職員皆で協力し合いながら日々の運営を行っているが、風邪などが流行する時期においては協力困難な状況となる場合が見られる。	職員間での協力のほか、出勤困難となる職員の早期把握に努める。
3	中核的役割を担うための体制構築	こども家庭庁が推進する児童発達支援センターの中核的役割を進めるべく、体制構築を整えていきたいと考えており、人員の確保等を今後の課題として受け止めている。	予算並びに中核的役割を担える人材の確保に努める。